

他にいくつかの意見が出されましたが、ほとんどの人が、学生さんには辞めないで続けて欲しいと望み、休職・離職をしなくてもいい働きやすい環境となるようアピールしていこうということになり散会しました。

しかし、離職をする人の多くは、出産を契機に、関係者に迷惑をかけられないなどの理由で、平均28歳で辞めざるを得ないようです。その原因の一つと思われることは、都道府県医師会のアンケートによるものですが、産休がとれる体制にあるのは50～80%くらいで、代替医師制度があるのは10%にもみえないという現状があります。医局制度が崩壊して交代医師の派遣がままならない現在、産休がとれない、産休がとれても元のポジションに戻れないのではと思われます。育児をしながら職を探すのは至難の業です。4割が女性医師になろうとしている近い将来、安心して産休がとれ、その後の復帰がスムーズにできる体制が早急に望まれます。

◇シリーズ 女性医師支援 病院での取り組み◇

第1回

「働きやすい病院」として認定されたしげい病院

岡山県医師会女医部会 副部長 清水 順子

女性医師をとりまく問題、特に、出産・育児との両立、離職などの問題は、病院に勤務している時期に多くは起きていると思われます。そこで、今回から、女性医師支援のさまざまな取り組みをおこなっている県内の病院を紹介していくことになりました。

今回、紹介するのは、倉敷市にあるしげい病院です。院長の重井文博先生にお話を伺いました。

しげい病院は、259床（一般50床、療養110床、回復期リハビリテーション48床、障害者施設等51床）と透析センター（同時透析100床）の病院で、腎・透析医療とリハビリテーションを中心とした医療を行っています。また、自然保護や環境問題への取り組みもされています。

今年1月に、全国で8番目、岡山県下では初めて、NPO法人「女性医師のキャリア形成・維持・向上をめざす会（ejnet）」の評価・認証事業により、しげい病院は「働きやすい病院（女性医師・すべての医療従事者にやさしい病院）」として認定されています。ejnet

は、女性医師の就業・生活をとりまく問題解決のため、女性医師の社会的貢献と地位



重井文博 先生

向上の支援を目的とする組織です。この認定では、育児・介護支援、復職支援、女性医師のキャリア形成などが評価されます。

「働きやすい病院評価」を受審したのは、女性医師を含め、女性が働きやすい病院と認定されることは、男性医師を含めたすべての職員にとっても働きやすい病院であることが認められるということ、職員満足無くして患者満足はないと考えたことなどです。しげい病院では、病院創立当初から、職員の福利厚生に力を注いでいますが、他院と比べて当院の働きやすさのレベルはどうか、不足しているところを知りたいと、第三者の視点で客観的に評価、アドバイスを頂くことが一番の目的だったとのこと。将来的には、複数の女性医師がチームを組んで、産前・産後、育児期などの代替要員となるような体制や、キャリア形成を支援できる病院になることなども目指しています。

認定以後、女性医師の新たな就職は、今のところないようですが、看護師さんの就職面接で、病院ホームページで認定されたことを見たという人は多く、看護師の就職には役立っているとのこと。

常勤医12名中女性は2名ですが、ちょうど、この機に改定された就業規則で1名の女性医師が非常勤で働いており、お会いすることができました。H7年卒で、夫は医師（現在研究職）で、小学校5年から1歳までの4人のお母さんです。岡山から通勤しているため、今は保育園の迎えに間に合うように、週4日9:00～15:00の勤務ですが、勤務時間・曜日も彼女が働きやすいように、その時々状況に応じて、柔軟に対応してもらっています。療養病棟勤務で急変は少ないけれど、不在時は他の医師のフォローがあり、また、同僚の男性医師からは、非常勤でもほぼ毎日働いてくれていて、病棟の細々したところまで対応してもらって助かっているとの評価です。4人目の子どもが3歳になったら常勤で働きたいと考えているそうです。

最後に、女性医師が働きやすい病院だけでなく、女性医師が働きやすい社会になるためにはどんなことが大切かとの問いには、働きやすい環境づくりはもちろんのこと、世の中女性が半分、これからは医師も女性が半分。女性医師もプロとしての意識を強く持ち、もっと自己表現したり、意見を言うことが大切と話されました。